

水稲用 初・中期一発処理除草剤

プライオリティ®

1キロ粒剤 豆つぶ®250 ジャンボ フロアブル



ノビエ



ホタルイ



オモダカ

2成分

ノビエ 3.5葉期まで

田植 同時

※1キロ粒剤・フロアブルのみ

移植 直後

直播

は種 同時

※1キロ粒剤のみ

WCS 使用可

※WCS:稲発酵粗飼料

除草効果優先、使いやすさ優先。

- 有効成分エフィーダ® (一般名フェンキノトリオン) 配合
- ノビエに卓効
- 移植当日～ノビエ3.5葉期まで幅広く使用可能
- 2成分で幅広い雑草を防除



エフィーダ® 配合
問題雑草に広く効く!!

※商品画像はイメージです。®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

- 有効成分：トリアフェモン…0.50% (1キロ粒剤)、2.0% (豆つぶ250)、2.0% (ジャンボ)、0.95% (フロアブル)
- フェンキノトリオン…3.0% (1キロ粒剤)、12.0% (豆つぶ250)、12.0% (ジャンボ)、5.7% (フロアブル)
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)



特長

- 有効成分エフィーダ® (一般名フェンキノトリオン) を配合した2成分の混合剤です。
- 雑草発生前～ノビエ3.5葉期まで卓効を示します。
- コナギやミスアオイ、オモダカ、ホタルイ、コウキヤガラなどの雑草に対して高い効果を示します。
- 水稲安全性が高く、移植当日から使用できます。また、1キロ粒剤では表面播種を含む直播栽培には種時から使用できます。
- 既存の4-HPPD阻害剤に感受性の高い飼料稲栽培時にも使用することが可能です*。

*既存の4-HPPD阻害剤に感受性が高いとされる、やまだわら、とよめき、タカナリ、モモロコシ、ミスホチカラ、ハバタキ、おどろきもち、ふくおこし、えみだわら、もみゆたか、みなちからに対し、エフィーダは高い安全性を示すことを確認しています。WCSIについては別途、稲発酵飼料生産・給与技術マニュアルを確認の上、ご使用願います。

適用雑草及び使用方法

2022年7月現在の登録内容

※各有効成分を含む農薬の総使用回数：トリアフェモン2回以内、フェンキノトリオン2回以内

1キロ粒剤 (農林水産省登録 第24171号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生性雑草、多年性イネ科雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、キシュウスズメノヒエ	移植時	1kg	1回※	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布
直播水稲	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ	は種時	1kg	1回※	は種同時散布機で施用
		は種直後～ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布

豆つぶ250 (農林水産省登録 第24172号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植直後～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布、 水口施用又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、 ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲出芽前～ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで	250g	1回※	湛水散布又は 無人航空機による散布

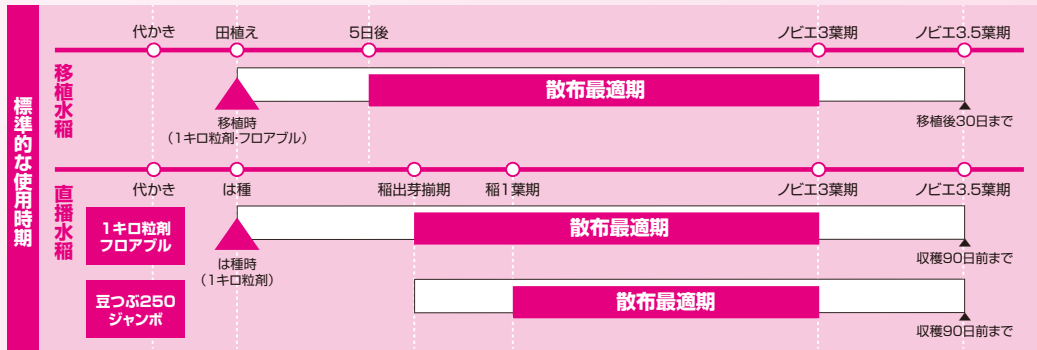
ジャンボ (農林水産省登録 第24173号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植直後～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装 (バック) 10個 (250g)	1回※	水田に小包装(バック) のまま投げ入れる
直播水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、 ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲出芽前～ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで	小包装 (バック) 10個 (250g)	1回※	水田に小包装(バック) のまま投げ入れる

フロアブル (農林水産省登録 第24313号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び 多年性イネ科雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、 ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、 オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500ml	1回※	田植同時散布機で施用
移植水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ	移植直後～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで			原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ	は種直後～ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで	500ml	1回※	原液湛水散布 又は無人航空機による滴下

上手な使い方



■使用上の注意 (抜粋)

- 【共通】
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに、時期を失ないように散布してください。
 - オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ (豆つぶ250・ジャンボ) は発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
 - 直播水稲に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - は種時に通常の湛水状態より水を落とすとして散布する場合は、散布後速やかに通常の湛水状態 (水深3～5cm) にしてください (1キロ粒剤)。
 - 発芽直後の稲に対して葉害を生じおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の出芽開始以降に散布してください (豆つぶ250・ジャンボ)。
 - 稲の根が露出した条件下では葉害を生じおそれがあるので使用をさけてください。
 - 除草効果の低下と生育抑制の葉害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
 - 葉害のおそれがあるので、後作物となす、たまねぎおよびさやえんどうを栽培しないてください。
- 【1キロ粒剤】
- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミスガヤツリ、ウリカワは4葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、キシュウスズメノヒエは再生葉3葉期までが本剤の散布適期です。
- 【1キロ粒剤・フロアブル】
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態 (水深3～5cm) を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。
 - 湛水散布または湛水周縁散布にあたっては散布の際は、やや深めの湛水状態 (水深5～6cm) にして水の出入りを止めてください。
 - 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態 (水深3～5cm) を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。
 - 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布してください。
 - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
- 【豆つぶ250・ジャンボ】
- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。エノサヤサカグサは2葉期まで、ウリカワ、キシュウスズメノヒエは3葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミスガヤツリは4葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期です。
- 【豆つぶ250・フロアブル】
- 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態 (水深3～5cm) に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないよう注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態 (水深3～5cm) を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
 - 葉類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布または水口施用を避け、本田内で水田全面に散布してください。
 - 水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけてください。
 - 室に対して影響があるので、周辺の葉葉にはかからないようにしてください。
- 【ジャンボ】
- 散布の際は、やや深めの湛水状態 (水深5～6cm) にして水の出入りを止めてください。
 - 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態 (水深3～5cm) を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。
 - 葉類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、使用はさけてください。
 - バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意してください。
- 【フロアブル】
- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイは4葉期まで、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミスアオイは3葉期まで、ミスガヤツリ、エノサヤサカグサは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、キシュウスズメノヒエは再生葉3葉期までが本剤の散布適期です。
 - 無人航空機で滴下する際は以下に注意してください。
 - 滴下は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 滴下に当たっては散布装置のノズルを取り外してください。
 - 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行ってください。
 - 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないでください。
 - 水源地、飲料用水等に本剤が流入しないように十分注意してください。
 - 薬液滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
 - 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬液散布には使用しないでください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2023年5月現在現在の知見に基づき作成しています。 2263(23-5)